

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300018		
法人名	社会拭き法人 相和会		
事業所名	ビハール横手 グループホームぬくもり (西ユニット)		
所在地	秋田県横手市上境字谷地中136番地		
自己評価作成日	令和2年9月20日	評価結果市町村受理日	
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス対策の為、現状では施設内中心の生活になってしまっているが、心地よい天気の日には外に出て季節を感じて頂いたり、リフレッシュできる機会を大切にしている。また、野菜の皮むきや洗濯物たたみ等、出来る事は行って頂く様にしている。昨年は外食ツアーや誕生日の入居者の方と一緒にお店に行きプレゼントを選んで頂き、支払いもして頂く機会を設けた。外の社会との関わりを持つことができ、とても喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広く田んぼに囲まれ見晴らしが良く、各棟の窓から見える景色は四季の移ろいを感じることでできる造りとなっていた。現在施設には常勤・兼務の看護師が3名配置されている。緊急時には24時間いつでも連絡・対応できる体制が取られており、医療的ケアが必要となった場合も出来るだけ家庭的なホームでの生活が継続できるよう取り組んでいた。また、感染症予防への対策が徹底されており、特に新型コロナウイルスに対しては、法人として「新型コロナウイルス感染防止対策委員会」を組織し、それぞれの支援場面ごとに感染拡大を防止するための「支援手順書」としてマニュアルを整備するとともに、研修会を実施していた。さらにゾーンニングした配置図をそれぞれのスペースに分かりやすく掲示するなど、法人・事業所が一丸となって予防に取り組んでいた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットホールに大きく理念を掲示し、意識共有し理念に沿ったサービスを提供に繋げている。	法人の理念のもと、西棟・東棟それぞれに理念を掲げ、支援の基本としていた。利用者・職員に見えやすいように、入口と各棟のホールに掲示し浸透を図っている。理念は必要に応じて見直しを行っているとのこと。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会による調理ボランティアやふれあい塾、ふれあい地域交流会への参加、施設の納涼祭や町内の納涼祭への参加を通じ交流しているがコロナ禍の為現在は実施できていない。	調理ボランティアや傾聴ボランティア、小学生による慰問、保育園との交流など定期的に利用者との交流を図る取り組みを継続している。今年度は訪問による交流が困難であるため、地元小学生と手紙を交換して交流を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域行事への参加やね年2回の広報誌を発行し、地域の人々へ伝え地域貢献が出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者様やその家族、婦人会、民生委員、市職員の方々が参加し、施設長、管理者、各ユニット職員、看護師が報告や話し合いを行い、サービス向上に活かす事が出来ているがコロナ禍の為文章での開催となっている。	コロナ禍のため、書面により各委員に活動内容を報告している。また、県内での感染状況が落ち着いた際には開催場所を変更して実施するなどして積極的に取り組んでいる。書面による報告については、行事、事故報告、開催した研修会など期間内の活動内容を詳細に報告されていた。	詳細な書面による報告に対する委員からの質疑、提案についても記載することで、より効果的な運営推進会議となるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で行政担当職員の方に事業所の実情、利用者様の様子や取り組んでいる事などを伝え、助言等をお願いし協力関係を築けるように取り組んでいる。	担当となる横手市の高齢ふれあい課には、運営推進会議のほか、電話にて随時相談できる関係性が築かれている。最近では新型コロナウイルスの状況を見ながら、運営推進会議の開催方法についても相談しているとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今現在身体拘束している方はいないが研修やグループホーム内での勉強会を開き、身体拘束を行わないケアを目指し取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を法人で組織し、2ヶ月に1度定期的に開催し、また法人の研修計画にも身体拘束防止を盛り込み実施している。受講者には研修内容と感想をレポートとして提出してもらうことになっており、個人の感想と研修の振り返りも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が開催する研修やグループホーム内での勉強会を行い、虐待を見過ごされることが無いように注意しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で制度について学ぶ機会を設けている。職員個々の理解度には個人差があるように思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の説明は管理者が行っており、利用者様や家族には十分な説明や理解を得る事が出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、モニタリング時や家族会、運営推進会議、家族アンケート等でご意見、ご要望を聞き、運営に反映させている。	毎月「ぬくもり便り」を発行し、利用者様の近況について、写真と担当からの直筆の文書で報告している。ホームには意見箱を設置するとともに、面会やケアプランの見直しの際にはご家族から意見を頂き、運営や利用者支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議等で意見、提案、話し合いをし、反映させている。	施設長、管理者等によるヒアリングがあり、職員が意見を出せる機会を設けている。また日常の会話の中でも職員に対して意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めて下さっていると思うが、全体的に不満を持っている職員もいる。やりがいや向上心が持てるよう自己評価制度を導入しており、個々に目標を設定しており実現に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価制度により、職員一人一人の能力、力量は把握出来ていると思われる。法人内外の研修があるものの、勤務時間や人員数の関係で参加が難しい状況にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会や横手市のブロック研修等で交流する機会があり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の意見や要望を聞き、毎日の生活に反映させ、安心出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご家庭等の意見、要望を聞き、毎日の生活に反映させ、安心出来る関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや、お絞り準備、調理の下準備等出来る事を一緒に行って頂き、暮らしを共にする者同士の信頼関係作りに努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やモニタリング時等の際に、ご本人の事でご家族へ相談し協力が得られる所はお願いし、共に支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様の希望があれば、自宅で過ごして頂く機会を設けたり、1か月に1回のふれあい塾や地域交流会に参加の支援を行い、馴染みの関係を大切にしているが、現在はコロナ禍の為実施できていない。	現在は外出や面会が難しい状況にあるが、利用者様・ご家族様の要望に合わせて外泊、外出等を行い、以前から利用している理容室で散髪するなど、馴染みの関係性を維持できる支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、お互いに関わり合えるような職員が仲介役となり声掛けを行い、良好な関係が築けるような支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様が行事に参加して下さるという事はある。サービス終了後も何らかの依頼や相談などがあればフォローや支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング等を通じて、ご本人の意向の把握に努めている。意向を伝えるのが難しい方は職員が日々接している中で本人本位に検討したり、ご家族様の意見、要望を確認しサービスに反映出来るよう努めている。	利用者様との普段の会話や昔の話から、本人の興味のある話題や関心のある事柄を引き出すよう取り組んでいる。特に料理、食べ物への話題には皆関心があり、話題に上った食材を行事食に取り入れるなど、利用者の思いを支援に繋げている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人の生活歴を確認させて頂いたり、ご本人との日々の会話やご家族様の面会時に情報を得たりし、把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の過ごし方や、心身状態を日々観察し、雑記帳やユニット会議等で話し合い、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしの為に課題や日々の過ごし方について意見を出し合い、モニタリングやアセスメントの機会を使いながら、ご本人・ご家族様の意向や意見を反映した介護計画を作成している。	担当者が利用者様の生活状況や身体状況を取りまとめ、それを基に職員間でさらに本人の思い、ニーズなどについて検討している。職員間でまとめた意見は、本人・家族の意向を合わせた形でケアプランを作成する。確定した計画は職員で周知されるとともに、ケース記録ですぐに確認できる状況となっていた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の変化などを記録。また雑記帳を活用し職員間で情報を共有しながらケア方法や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	調理ボランティアや傾聴ボランティア、ふれあい塾の利用等により豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援しているがコロナ禍の為現在は実施できていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認し、納得が得られたかかりつけ医を受診できるよう支援している。	ホームには月2回の訪問診療があり、また歯科については隣接する特別養護老人ホームに往診がある。利用者様個々のかかりつけ医への受診についても、希望があれば付添支援を行っている。薬局についても近隣の薬局に協力いただき都度相談できる関係性を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での変化や気づきを迅速に看護師へ伝え情報を共有し適切な処置や受診が受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者や看護師が病院関係者との情報の交換や相談を行っている。職員は定期的な利用者様の様子伺い等で、病院関係者と情報交換を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、ご家族様に意向を確認し、事業所として出来る事を十分に説明した上で方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際の対応指針を定めており、ご本人・ご家族様への説明同意のもと支援を行っている。医療的ケアが必要となった場合も看護師を中心として対応に当たっており、可能な限りホームでの生活が継続できる支援体制となっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会等で学んでいるが、実際に落ち着いて行動できるかは不安な所もある。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(日中、夜間想定)の避難訓練を行い、昼夜問わず利用者様が避難できる方法を学んでいる。またその際には他事業所、地区の消防団の方にも参加、協力して頂いている。	周囲に住宅がないため、災害時には隣接する施設と協力しながら対応に当たることとしている。緊急時の対応方法はマニュアルにより手順化され、また館内には避難経路が分かりやすく掲示されており有事の際に備えている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉かけや態度で接するように努めており、職員は言葉や口調に気をつけながら対応している。	利用者様の発言を抑制することなく、まずは訴えを聞くように職員で心掛けている。利用者様のプライバシーについての研修は年度計画に定め、職員間での意識づけを図っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者様は少ないが、出来る限りご本人に選んで頂けるよう選択肢を用意した言葉かけを行い、思いや希望を表せるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先となっていると感じる所もあるが、出来る限り入居者様一人一人のペースを大切に支援が出来るよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みや服装、、ご家族様からの要望を取り入れた衣類選びや定期的な床屋さんの利用。他にも個人的専用のシャンプーなど今までと変わらずおしゃれでいられるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取り献立に取り入れたり、一緒に皮むきや、盛り付け、テーブル拭きやおしぼり準備などを行い職員と一緒に食事の準備をしている。	旬の食材から四季が感じられ、食事を楽しむことを意識的に取り組んでいる。特に毎月の行事では笹巻きを皆で作ったり、秋の味覚「サンマ」を味わうなど、利用者の要望も取り入れながら食事を楽しんでいる様子が見られた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて摂取量、水分量を調整している。嚥下状態によりお粥や刻み食を提供し栄養摂取に努めている。自助具等も準備出来る限り自分で食べることができるよう支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後都度口腔ケアを行い、口腔内の衛生管理に努めている。ご自分で口腔ケアが難しい方には、職員が必要に応じて介助し対応している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導のタイミングなど失敗が少なくなるよう努めている。また夜間リハビリパンツ使用の方でも、日中は綿パンツを使用し、その方に合った支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者様の状況に合わせた支援を行っており、出来るだけ自立した排泄を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1回は乳製品を提供したり、水分を好まない方には他の物で水分不足とならないよう配慮し対応している。体操や棟内散歩も定期的に行い自然排便に繋がられるよう努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を実施し、健康状態を確認している。入浴の曜日や時間帯はほぼ決まっておらず、ご本人の希望のタイミングでは入浴できていない状況である。	入浴は週2回を基本とし、利用者の状況により清拭、足浴等の対応も行っている。特殊浴槽と一般浴槽が設置されており、身体状況に応じて入浴できることがホームの特色にもなっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休めるように体制ができる。その時の状況や個人に合わせて休息して頂いたり、安心してよく眠れるよう静かな環境を整えている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬の情報を職員が共有し、目的や副作用の理解に努めている。看護師や嘱託医と連携をとりながら適切な支援に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、お絞りの準備、調理の下準備等出来る事を一緒に行って頂くことで、張り合いや役割があり喜びのある日々を過ごせるような支援に努めている。また、歌や体操、散歩、作品作り等により気分転換の機会を設けながら支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿う事はなかなか難しいものの行事等でドライブを計画したりなど、戸外に出掛けられるような支援に努めているが現在はコロナ禍の為実施できていない。	外出支援が難しい状況ではあるが、散歩やドライブなどの外出を計画実施している。また今年度は、“屋台の料理”をホームで作って利用者へ提供し、お祭りが中止となり外出できない分ホームの中で楽しんでもらえるような配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を管理しており、ご本人からの要望があれば使うこともできるようにはしているが、希望される利用者様はいない。一部の利用者様ではあるが誕生日にプレゼントを選んで頂き支払いをして頂く機会を設けた。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等からの電話を受けて会話をされる利用者様はいるが、自ら電話をかけることを希望する方や手紙のやり取りを希望する方はいない。希望があれば、希望に添えるよう支援を行う。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に快適に過ごして頂けるよう清潔を心掛け、毎日清掃や消毒を行っている。また季節に沿った飾りつけを行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	各ユニットのホールには加湿器が備えられ、意識的に換気の時間を設けて実施しており、感染症予防に配慮していた。また、小上がりの和室にはコタツが置かれており、横になってくつろげる空間となっていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファや和室などの環境を整備し、利用者様は思い思いの場所で過ごすことができる工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真など使い慣れた物や好みを持ってきて、居心地よく過ごせるよう工夫することが出来ている。	利用者本人がなるべく自分の居室であることを意識できるよう、使い慣れた物を持ち込んでいた。またご本人やご家族様の写真なども置かれており、安心して過ごせるよう配慮がなされていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活用し出来る事の維持やトイレや浴室などの場所にはのれんや表記などをし分かりやすい環境作りの工夫をしている。出来る事や分かる部分を多くすることで自立した生活が送れるように工夫している。		